

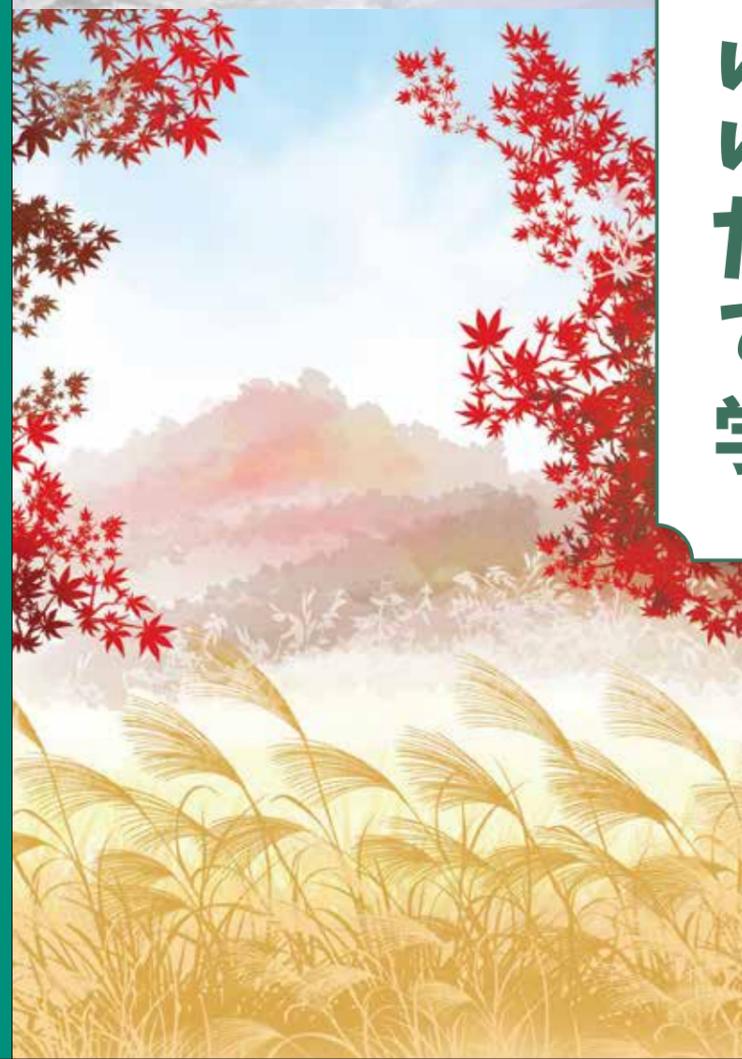


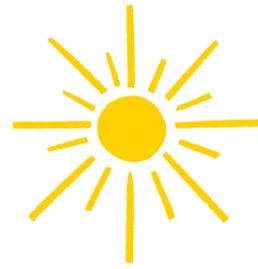
発行年月日 令和6年2月14日
制作・発行 飯館村立いいたて希望の里学園
〒960-1803
福島県相馬郡飯館村伊丹沢字山田380番地
TEL 0244-42-0003
制作 いいたて希望の里学園
制作協力 一般社団法人リテラシー・ラボ
ヘイソン・ニャー
授業サポート 千葉偉才也 久保田彩乃
表紙イラスト 国広あづさ (漫画家・飯館中学校卒業生)



— 人から人へ繋がる学び —

いいたて学





- 1 はじめに 3
- 2 7年生 4-5
- 3 8年生 6-7
- 4 9年生 8-9
- 5 教師・関係者から 10
- 6 あとがき 11

いいたて学とは？

「いいたて学」は、地域に根差した実践的な活動を通して“いいたて”に学び、情操や自立心を育み、生きる力を養う教科です。1年生から9年生までが「いいたて学」の学びを体系的に進めながら、多彩で探究的な学びに取り組んでいます。後期課程では、3か年の探究活動を設定して、「飯舘村のためにできること」を自分のこととして考えていく計画を立てています。

3か年構想 「知る」「学ぶ」そして「つなぐ」

7年生

飯舘の過去

* 飯舘村の過去をひも解き、「飯舘村を語り継ぐ」

探究課題：郷土への愛着・誇り・思いはどこから生まれてくるのだろうか？

〈自然・食〉〈伝統（学校）（芸能）〉に焦点をあて、それらの変化について、関わりのある人にインタビューを行いました。飯舘村に刻み込まれた歴史、村民のふるさとへの思いを知り、自分たちが「考えていくべきこと」をまとめました。

つながる

8年生

飯舘の現在

* 飯舘村の今を支えるもの 一過去があるから現在がある一

探究課題：ふるさとの担い手の原動力とは？

「もっと深く飯舘村を知りたい。自分たちは何をすべきか…」。その問いに向き合うために、他地域と比較をして「復興とは何か？」を考えました。さらに、村内での職場体験を通して、働く人々が飯舘村にどのような思いを持っているのか、また、その「原動力」について学びました。

つなぐ

9年生

飯舘の未来

* 未来の飯舘村のために自分にできること

探究課題：ふるさとの担い手として、
どんなつながりを生み出していくか？

これまで向き合ってきた「過去」「現在」や地域の現状を踏まえて、自分たちが地域に主体的に関わる〈ふるさとの担い手の一員〉として、どのような行動ができるのか、生徒同士で意見を出し合いました。3年間の「いいたて学」の学びを通し、より身近な存在となった飯舘村に、「自分たちができる持続可能な関わりは何か？」など、将来の自分とつなげて考えました。

つなげる

* 飯館村の過去をひも解き、「飯館村を語り継ぐ」

探究課題: 郷土への愛着・誇り・思いがどこから生まれてくるのだろうか? 「語り継ぐ」とは、自分の考えを踏まえて、伝えるだけでなく、『思い』や『こうあってほしい』という願いを含めたものとした。

生徒たちの課題設定には、飯館村の過去をひも解くことに留まらず、東日本大震災と原発事故により変化してしまった人々の生活や飯館村への思いに視点を置きました。自分たちは何をすべきかを、7年生としての思いを寄せ、考えていく活動にしました。

課題の設定のための情報収集

① 東日本大震災と原発事故について調べる。(福島県浜通りと飯館村)

* 生徒たちは、当時1~2歳だった。調べることで、地震の大きさと被害を知りました。

② 東日本大震災と原発事故当時のことについて、家族にインタビューをしました。

また、飯館村出身の先生のお話を聞きました。

* 「想像がつかない」。でも、今だからこそ、その当時の大変さを理解しようとするのが大切だと気付きました。

③ 東日本大震災・原子力災害伝承館見学

* 複合的な記録と被災した人々の記憶にふれて、経験したことのない災害について知り、防災・減災の教訓を学びました。

* 映像や残されたものからしか得ることができない。しかし、被災した土地を訪れることで、感じたことは大きかった。生まれ育った飯館村ってどんな村? どんな場所? 生徒たちは自身に問いかけ、興味・関心をもったことを、個人テーマとして設定しました。



課題の設定 : 個人テーマの設定

【山菜生活から見る変化】

【飯館村にとっての学校 ~廃校舎の活用~】

【歴史の移り変わり ~田植え踊りの復活~】

【飯館村の人の食に対する思い】

情報収集

① 地域の人へのインタビュー

* 当時感じたことや思い、これからの願いを聞きました。

② 3つの小学校見学

* それぞれの校舎の学校生活を想像したり、校舎の歴史や雰囲気を感じたりしながら、また、自分たちの学校生活と比べながら見学しました。

* 見た目や使われ方は変わっても、もともとは学校であったという存在の大きさを感じました。

③ 飯館村村長 杉岡 誠さんへのインタビュー

* 飯館村内で生活する人、飯館村外で生活しながらも、「飯館村のために何かしたい」と思う人など、住む場所が違っても飯館村を思う気持ちは同じ。その思いは『生きがい』となっている。

* 『伝統とは、人々の思いのつながり・心のつながり』と言う言葉が印象に残りました。



整理・分析

個人テーマの探究を進めることで、飯館村の文化や伝統に対する考え方が深まりました。

飯館村の文化・伝統

自然の恵み〔山菜・野菜〕 伝統芸能〔田植え踊り〕
学校の伝統・郷土料理

- * 自然への感謝
- * 元気になりたい
- * つなぎたい
- * 食べてほしい

震災があっても人々の思いが文化・伝統をつないできた



自分たちもつないでいきたい!

発表・まとめ

知り得た情報や感想を物語風に発表

→ デジタルストーリーテリング (デジタル紙芝居)



「語り継ぎ、受け継ぐ」ために
— 杉岡誠村長の話から —

* 「文化・伝統をつないでいくには『つなぎたい』と思う人とそれを受け止める人がいること。受け取る人の『受け取りたい』という思いが、言葉として伝わるのが『つながる』原動力になる。



つなぎたい側 ↔ 受け取る側



「受け取りたい! 教えてほしい!」と声を上げることが大切だと気付いた。

「受け取る側」から「つなぐ側」へ

私たち自身が教わり、体験する。飯館村の人々の思いを、自分たちの言葉で語り継ぐ。新しい形で受け継ぐ方法を提案する。



* 飯館村の今を支えるもの 一過去があるから現在がある一

探究課題：ふるさとの担い手の原動力とは？

職場体験（キャリア教育）と「いいたて学」をつなげ、「働く」という体験を通して、「なぜ飯館村のために…」 「働くことと生きがい」について向き合いました。また、それが何から生まれ、何が原動力になっているのかを考えました。

課題の設定のための情報収集

① 飯館村地域おこし協力隊の取り組み

飯館村を知る、飯館村に来たくなる「きっかけをつくる。
他に出向いてPR！飯館村を知らない人のために。
「行こう！いいたて」情報発信。
地域で“楽しく”仕事をつくる。

なぜ飯館村で…？
そこまでの思いはどこからくるのだろうか？



課題の設定：ふるさとの担い手としての思い

情報収集

① 校外学習：「川内村」～川内村を支えるもの～【他地域に働く担い手】

* 他地域の取り組みを知ることで、飯館村との共通点や相違点に気付くかもしれない、川内村のふるさとの担い手の原動力を調査しました。



② 職場体験【飯館村内で働く担い手】

* 職場体験（飯館村内で働く人のもとで仕事を体験する）を通して、飯館村で働くふるさとの担い手の思いを調査しました。



③ オンラインインタビュー【飯館村外で働く担い手】

* 場所が違って、先祖代々つないできたものを、自分なりの形でつないでいく。農村には様々な価値があること、離れていても飯館村への強い思い、「愛」を感じました。



整理・分析

「飯館村の魅力」

飯館村には、豊かな自然、昔からつないできた伝統、人の温かさなどの魅力があります。担い手の方々は、震災で見えなくなった魅力を取り戻そうと頑張っていました。

「ふるさとして恩返しをしようと思う気持ち」

多くのふるさとの担い手の方々は、飯館村で育ち、飯館村の良いところを感じながら、沢山の人の助けを借りて生きてきたことが分かりました。

飯館村で代々受け継がれてきた伝統のつながり
支え合って生きている人々同士のつながり
そして、ふるさとの担い手の方々から
新たに生まれていくつながり

「周りの人達の言葉」

「美味しい」「かわいい」などの自分が関わった仕事や行いへの感謝の言葉、励ましの言葉が、うれしくて「またがんばろう」とつながっていくことが分かりました。

「飯館村や支えてくれる人の存在」

人は、自分一人の力では何もできない。支えてくれる人がいる。飯館村があるから今の自分がある。大好きな飯館村のために、みんなで支え合って頑張っていきたいと考えるようになりました。

発表・まとめ

ふるさとの担い手図鑑



私たちもまたそのつながりの中で生まれた『ふるさとの担い手』なのではないか！

私たちもふるさとの担い手の一人として、飯館村の未来のために自分にできることを考え、周りの人と支え合って実現していく。

*ふるさとの担い手としてできること

探究課題：ふるさとの担い手としてどんなつながりを生み出していくのか？
飯館村のために活動しているふるさとの担い手に、自分たちが描く「よりよい地域」のあり方を提案しました。その上で、一緒に活動することで見えてきた、自分たちができる持続可能な関わり方を考えました。

課題の設定のための情報収集

① 校外学習：福島大学訪問

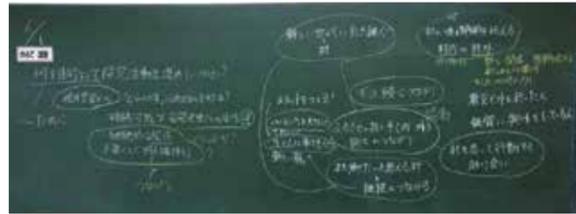
福島大学において「地域実践特修プログラム」を学ぶ大学生が福島県の地域についてどのように考え、地域に貢献しようとしているかを知ることで、「飯館村の未来」について自分たちが考えていく手がかりを見つけることができました。

探究サイクル1〈1学期〉：ふるさとの担い手としてできることを考える

課題の設定：何を目標として(…のために)探究活動を進めていくのか？

つながりの必要性について考えました。「つながる」って具体的にどういうことか。

- *そもそもつながりって必要か、理想のつながりの状態とは。
- 飯館村内・村外のつながりって必要？
- つながるメリットは？



- 必要である〔理由〕
- つながりや交流によって飯館村の良い所を飯館村外の人に知ってもらえたり、興味を持ってもらったりして飯館村に来てもらうことができる。
- 新しいアイデアが浮かび、取り入れることができる。

情報収集

飯館村の未来につながることを、具体的に考えよう。

インターネットで情報を得たり、自分の考えを伝えたりしながら情報収集しました。

発表・まとめ

探究課題についての構想の発表



振り返り

ふるさとの担い手として考えた「飯館村内」「飯館村外」とのつながりの発表から、次の探究サイクルにつながる課題を考えた。

- ★他地域とは違う飯館村の強みを見つける。
 - *飯館村しかできないもの・こと
- ★飯館村での活動を発信していることについて知る。
 - *活動内容
 - *そこに存在する思い
- ★情報発信と情報共有
- ★飯館村の地域コミュニティのあり方
- ★他地域から来た人でも馴染めるような居場所作り

校外学習で交流した福島大学のみなさんに発表を聞いてもらいコメントをもらいました。



探究サイクル2〈2学期〉：ふるさとの担い手としてできることを実践する

課題の設定：班で考えた「つながり」を実践可能なものにするためには各班(飯館村内・飯館村外)の協力者へ、自分たちの考える「つながり」についてと今後の取り組みについてプレゼンテーションをした。

「飯館村」のことを多くの人に知ってほしい。実際に足を運んでほしい。私たちが知る飯館村の自然に触れてほしい。班員一人ひとりが、協力者に思いや考えを伝えることで共有事項が増えました。



「動画」は、見る人によって見方が違う。だからこそ、そこに込める内容を考えていくことが必要。「視聴することで何を感じてほしいか」を考えることが大切だと考えました。



情報収集：課題達成に向けて、情報収集・整理をしよう。

【企画書の作成】

村内班



撮影場所は：
どんな雰囲気にする：
インタビュー内容・中身は：
だれに取材をお願いする：

地域コミュニティの場の一つである、『図図倉庫』を撮影場所としてお借りし、撮影だけでなくこの場所の意味も感じました。

【実践的な活動】



村外班



どんな花を使う：
花のよさがでる使い方：
手にとれる大きさの作品は：
イメージ：
どんな人に手にとってもらいたい：
使用する用紙は：

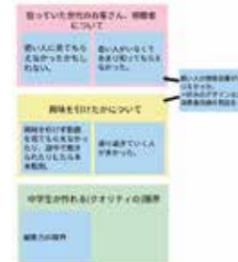
自分たちで考案した商品を実際に販売し、お客さんとのやり取りから多くのことを学びました。



整理・分析：各班の実践活動は、目的を達成するための手段として有効だったか？

班での検証

共通する課題の共有



検証から見えてきたこと

- ① 生み出したつながり
- ② 飯館村に興味をもってもらうきっかけづくり
- ③ 「交流人口を増やすことによって、飯館村の経済は活性化する」「定住人口が増えると、地域コミュニケーションが活性化する」という私たちの仮説は、情報収集のあり方や、さらなる調査が必要であると感じました。

発表・まとめ

9年生の探究課題である「どのようなつながりが生まれたか？」人・もの・ことをつながりについて、【探究サイクル1】で自分たちの考えを整理分析しました。そして【探究サイクル2】では、実践活動を通して深く考えました。

そして、「つながり」について、私たちの考えをまとめました。

- もともとあったつながりがさらに強まり、新しい絆が生まれた。
- *飯館村内の協力者と私たちはふるさとの担い手同士
- *私たち9年生同士 *私たちと飯館村

私たちと飯館村



私たちと飯館村の絆はずっと続く。そして「いいたて学」で学んだことを語り継ぎ、思いをつないでいくことが、私たちにできることだと考えました。

『今あるつながりを大切に思いをつなぐ』

飯舘村のような特殊な環境では、
 私たち事業者は生徒さん世代と関わることがほとんどないので、いい
 たて学を通じて、生徒の皆さんとアイデアを交換し一緒に活動する機会を頂け
 ただけで、とても有難いです。授業の枠を越え、休日の図図倉庫のイベントなどに
 足を運んでいただけるような、生徒さんとのフランクなつながりができたことが一番う
 れしいことでした。飯舘村に住んでいてもいなくても、学校に毎日通い、地域のことを
 知り、考える時間があることで、生徒さんたちにとって飯舘村が、ただ勉強をしに行く
 場所ではなく、少し特別な場所になるのではないかと思います。生徒さんたちには
 ぜひ、「自分にとっての特別な場所」をあちこちに見つけて、いろんな価値観に
 触れ、人生を豊かにしていってほしいです。

複合施設運営(図図倉庫) 松本 奈々

地域を知り、自分のこと
 として考えていく活動において、
 同じ思いで、地域と様々な関わり方を
 している学校外の方との協働により、生徒
 たちの知識やものの考え方が広く、深い学
 びにつなげることができると思う。「人・も
 の・こと」に触れ、地域を「どのように
 活性化していくか」と多様な視点で考
 え、試行錯誤しながら活動している姿
 は、私たち教師にとっても刺激となり、
 「なにを、どのようにしたら…」という、
 地域学習のあり方を考えるきっかけと
 なった。また、生徒たちにとって、
 探究心を向上させる手立ての一つ
 であると考えられる。

荒 寿子

地域や自分の身のまわりの課題や問題を解決
 しようと思うと、学校で学んだことだけでは解決でき
 ない場合がある。そんなとき、社会や地域で実際に活躍する
 人から学ぶ知識や体験は、学校での学習の何倍も新鮮であり、
 印象にも残る。外部の方から学ぶということはその課題の「リ
 アル」に触れ、立ち向かうことであると考え。そういった「リ
 アル」に触れる経験を通して、現代の予測困難な社会を生
 き抜く力を身に付けてほしいと願う。

永井 努

私は学生の頃、ゴルフというスポーツを通じ
 て、学外の大人の方々と触れ合う機会をいただきました。
 そのおかげで、社会の厳しさを学生の頃から体感するこ
 とができました。学外で学ぶことは、地域にとっても地域の方々
 にとっても、嬉しいことではありますが、1番は、学生さん自身
 の学びや気づきにつながると思います。学外でたくさんの大
 人の方とどんどん触れ合ってみてください。

飯舘村地域おこし協力隊 松尾 洋輝

飯舘村に移住したキャンドル作
 家として思うことは、地域に暮らす移
 住者や専門的な生業をもつ人と関わるこ
 とで、その土地でしかできない独自の暮らし方
 や仕事のあり方に気づき、自身の将来の仕事
 や暮らし方の選択が増えるきっかけになるの
 ではないかと考えます。この土地ならではの
 風土、料理、人々など…飯舘村で学んだす
 べての経験が、きっとこの先暮らす上での
 大切な知恵になると思います。かつて私が
 福島を離れ大学～社会人を経てまた故郷「福
 島」にUターンしてきたように、外の目線
 から改めて飯舘村での学びを振り返った
 時、当時学んだ経験が、少しでも学生自
 身の糧になっていたら嬉しいと、そう
 願っています。

工房マートル 大槻 美友

9学年の生徒たちの多くは、現在飯舘村外か
 ら通学している生徒、他地域から転入してきた生徒であ
 る。ともすれば、地域の仲間としての意識や地域への愛着、
 誇りなどを醸成しづらい環境にある。そのような中で、飯舘村
 のふるさとの担い手たちと関わり、協働することは生徒自身が
 ふるさとの一員であると自覚する上で非常に意味のあることだ
 と言える。その自覚が、自分の居場所、自分を認めてくれる場
 所があるという安心感につながり、生徒自身の自己肯定感を
 高めることにもつながるのではないかと感じている。

中村 愛美

東日本大震災と原発事故によって人々の生活が変化し
 てしまった飯舘村。

しかし確実に前に歩みを進ませています。

新たな歩みには、大きなエネルギーが必要であり、「自
 分たちにできることは何か？」と生徒たちが問いかけ
 ることも、その歩みの一つではないか…。と考えてい
 ます。

いいたて学を通しての飯舘村の過去・現在・未来の探
 究活動は、いいたて希望の里学園に通う生徒たちにとっ
 て、この地を理解し、「人・もの・こと」との関わりの中
 から生まれる「こうあってほしい」「こうしたい」と
 いう思いや願いを、生み出すきっかけになっています。

以前の村を知る人から、そして、この飯舘村の魅力を
 自分の生活の一部として活動をしている人から、生徒
 たちは、飯舘村への思いを知り、共に活動する「協働」
 によって思いの形に触れてきました。

『知る』『学ぶ』そして『つなぐ』

いいたて学で培った知識と行動力は、これから夢や目
 標に向かっていく過程においての力になると期待して
 います。